

connect

[コネクト]

第5号

令和5年1月

お伝えします。

医療の“いま”、病院の“いま”を



副院長 岩川 純

院長 濱崎 秀一

副院長 米田 敏

2023年にむけて



公益社団法人昭和会 理事長 今給黎 和幸

いまきいれ総合病院 院長 濱崎 秀一

診療支援部門、医療安全部門、患者支援部門、看護部門、事務部門

特集 歯科口腔外科

つながる医療 つながる生命

いまきいれ総合病院 2023年にむけて



理事長
今給黎 和幸

院長
濱崎 秀一

2022年もCOVID19-9に振り回された1年でありました。

フェーズによっては即応病床もその都度変更し、対応したスタッフにはかなりの負担をかけていたと思います。また、要介護患者の増加はさらに疲弊させる原因になっていたように思います。行政からの病床確保の要請には応えたいけれど、現場の実情も考慮して欲しいといったところが、経営者に共通した思いではなかったでしょうか。

コロナ病床設定時は救急要請の不応需も高かったようで、本来の使命を果たせないもどかしさも現場からは伝わってきました。今後は新興感染症に対する病院機能の役割分担を明確化すべきと痛切に感じた次第でした。いずれにせよ行政や関連病院間とのフィードバックなど何らかの検証は必要であろうと考えます。

さて、2023年はアフターコロナと位置付け、飛躍する年にしたいと思います。

ここ交通局跡地開発も佳境を迎え、いよいよ春にはキラメキテラスのグランドオープンとなります。当院も創業85周年と節目の年にあたります。コンセプトの30年後（構想してから30年で2040年代）の鹿児島に向けた『世代を超えて、いきいきと生涯かがやくまち』を実現させていくこととなります。労働人口減少は現役世代にはますます負担が重くのしかかる未来が予想されます。それを少しでも軽減するためのまちづくりを私たちは始めています。それはICT化であったり、医療・介護・福祉サービスの充実であったりするわけですが、何よりも多世代で支え合う仕組みづくりがこれからのコミュニティには求められているのだと思います。そのような『共生社会』でいう自助・互助・共助を私たちはヒューマンライフラインという言葉でアピールし、キラメキテラス構想に包含しています。

単なる医療提供だけでなく、私たちのミッションである社会にコミットしていく（社会貢献）を職員と共有し持続可能な社会を目指していきたいと思ひます。

2022年の8月には新型コロナ第7波が猛威をふるい学童感染者の増加により多くの職員が家庭内感染者や濃厚接触者となり欠勤者が最大60名程度にまで増えました。しかしながら院内協力体制により病院診療はほぼ平常どおり運営することができました。当院職員のポテンシャルの高さを再認識した次第です。

9月にコロナ病床の拡充を余儀なくされ、一般病床が減床となったため多くの救急車の要請を断らざるを得ない状況となってしまいました。近隣の諸先生方や市民の皆さまに御迷惑をおかけする事態となってしまいましたことを深くお詫びいたします。

アフターコロナにむけて当院のコロナ禍の財産として、すべての職種が参加しての情報共有・協議・決議・実行を行う持続可能な危機管理体制の基礎が築けたことがあげられると思ひます。

2023年は新型コロナ診療が日常診療の中に落とし込める状況になることを期待しています。当院としては、やるべき感染対策をきっちりと講じた上で救急医療や紹介入院患者を中心とした地域医療支援病院としての本来の機能を取り戻せる2023年になることを願っています。

その他、2021年に当院が県内4箇所目の特定行為看護師指定研修機関に認定され、2023年に当院の5人の看護師が一期生として特定行為看護師研修を行いました。患者さんに最も近い現場にいる特定認定看護師、特定看護師がチーム医療のキーパーソンとして、患者さんのみならず医療関係者からも期待される役割を担ってもらえるものと思ひます。

働き方改革についても少子高齢化にむけて持続的な医療提供体制を構築するために必要不可欠との認識に立ち、医療従事者の働き方・休み方の改善と労働環境整備について全職種で積極的に取り組んでいます。

2023年は病院機能評価の受審や急性期充実体制加算の申請、さらには各部署の宿日直許可の申請などクリアしなければならない課題が多数待っています。患者さんにとっても職員にとっても満足度の高い医療機関になれるようチーム医療を心がけながら前向きに進む一年を目指します。



診療支援部門

■部門長／小倉 芳人(診療部長)

■副部門長／齋藤 兼一(臨床工学課顧問)



診療支援部門は8部門(薬剤課、中央放射線課、中央臨床検査課、リハビリテーション課、栄養管理課、臨床工学課、病理課、歯科口腔外科)で10種の国家資格者172名とその他技能職、助手など24名、総計196名の職員で構成されています(2022年12月現在)。

私たちは、医療専門職として自らの特性を活かし、チーム医療やタスク・シフト／シェアを推進して患者さまに質の高い医療を安全に提供できるように協力・支援しています。また、日々進歩していく医療技術や個々のニーズにも対応できるように、常に向上心を持って自己研鑽に励み、そして高い専門性と豊かな人間性を持つ人材育成に努めています。

医療安全部門

■部門長／岩川 純(副院長)

■副部門長／千田 清美(医療安全管理課課長)



医療安全管理部門は、2019年に旧クオリティコントロールセンターから医療安全管理部門に組織改正が行われ、ICDの岩川先生が部門長に就任し、医療安全管理課・感染管理課・褥瘡管理課が設置されました。それぞれが独立して活動していますが、病院の組織的な医療安全管理体制の確保と事故防止策の取組みおよび感染防止対策と褥瘡対策を担い、院内の各委員会や多職種チームとの連携を図っています。また、新興感染症等に対応するための医療提供体制における外部機関との連携強化や、超高齢者の増加による患者特性を考慮したケアの提供など課題もありますが、院内の医療の質の向上と安全確保のための取組みを現場と共同し継続的に進めてまいります。

患者支援部門

■部門長／今給黎 尚幸(副理事長)

■副部門長／原口 一博(患者サポートセンター長)



患者支援部門は、病床管理課(ヘッドコントロール・PFM)と患者サポートセンター(医療連携センター・外来予約センター・がん相談支援センター・緩和医療・医療相談・退院支援)の2部署で構成されています。患者さまが不安なく治療に専念できる療養環境を整えるために、看護師(緩和ケア認定看護師含む)・保健師・社会福祉士・アシスタント・事務と様々な職種で構成されている部門となります。

2023年度には、入退院支援センター(PFM)が隣接する商業ビルに移転することとなっています。現在の混雑した状況の改善を期待しており、更なる患者さまへのサービス向上に取り組んでいきます。

看護部門

■部門長／近藤 ひとみ(看護部長)

■副部門長／藤山 みどり、河原 尚美、上山 真紀(看護副部長)



2024年4月に向け医師の働き方改革が進められるなか、タスク・シフトのイメージが強く、看護師たちは今でも担う業務が多く『医師の仕事は軽減されるけれど自分たちの仕事は増えるばかりなのか』と不安を抱えています。シフトではなくシェアであると、各職種の専門性の発揮を前提に患者さまの利益を第一に考えて、組織全体の業務の効率化、より質の高い医療を提供するための各職種の協力・分担について、今後は丁寧な検討が必要と考えます。

次年度も看護部の組織力をもって、看護職員一丸となり「看護の力」を発揮したいと思います。

事務部門

■部門長／御供田 貴之(事務長)

■副部門長／末吉 保則(事務次長)



依然として先の見えないコロナ情勢の厳しいなか、事務部門では安定した病院経営を維持するため、収益増加策はもちろんのこと、経費削減も併せて行ってまいります。また、医師や看護師をはじめとした働き方改革については、他部門含めたタスクシェアを検討し、アナログからデジタルへの業務見直しを図り、業務の効率化と生産性向上に努めます。

今年はホテル・サービス棟もオープンとなりキラメキテラス周辺への期待も高まっています。「ブラボー」な1年となるよう事務部門も一丸となって地域に愛される病院を目指します。



特集 歯科口腔外科

歯科口腔外科紹介

歯科口腔外科では歯や口の中だけでなく、顎骨や口腔周囲の組織を専門領域としています。当科ではご紹介いただいた患者さまの口腔外科専門的治療や、入院患者さまの周術期口腔機能管理を行っています。今回は当科で治療を行うことが多い「顎変形症」と「骨吸収抑制薬関連顎骨壊死(ARONJ)」についてご紹介します。

顎変形症

近年、歯並びや咬み合わせへの関心が高まり、矯正歯科治療が成人層にも浸透しています。しかし、顎骨に重度の発育異常や変形がある場合、通常の歯列矯正治療だけで不正咬合を改善することが困難です。このような骨格性不正咬合による顎機能障害に対しては骨格の手術を含む治療が必要となります。当科では専門外来として「顎変形症センター」を設置し、多くの矯正歯科専門医と連携し顎矯正手術に取り組み、南九州における有数の顎変形症治療施設となっています。

顎変形症では顎骨の形態的不調和によって、かみ合わせや発音などに機能障害を起こしていたり、顎関節に異常が生じていたりすることもあります。また顔貌の美的不調和を気にされている方もいらっしゃいます。顎変形症を一般的な言葉で表現すると、「受け口」、「出っ歯」、「顎のゆがみ」、「前歯がかみ合わない」(図1)などが挙げられ、比較的身近な疾患と言えます。診断はレントゲンやCT検査を用いて行い、治療は①術前矯正治療、②顎矯正手術、③術後矯正治療の順で進め、平均的な治療期間は2~3年です。手術にはいくつかの術式があり、下顎のみの異常である場合は下顎骨単独の手術を行い、上下顎の異常がある場合は上顎骨と下顎骨の手術を組み合わせて行います。



図1

症例



16歳女性、下顎の前突感を主訴に受診。上顎骨の劣成長および下顎骨の過成長による顎変形症と診断し、上下顎骨同時移動術を施行。手術後は顔貌の美的調和と正常咬合が得られている(図2)。術前に3Dシミュレーション行い術式を検討している(図3)。本症例では上顎骨の前方移動と下顎骨の後方移動を行った。

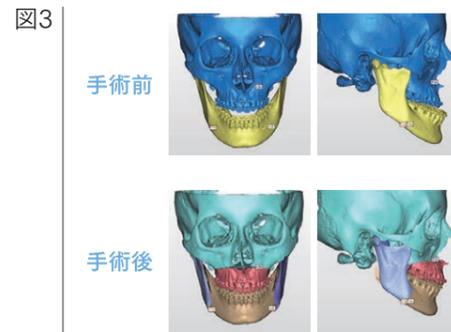


図3

骨吸収抑制薬関連顎骨壊死(ARONJ)

ビスホスホネート製剤やデノスマブ製剤などの骨吸収抑制薬は、がん治療においては骨転移の治療に、骨粗鬆症治療においては骨折の予防に用いられる非常に有効な薬剤です。一方で副作用として顎骨壊死や骨髄炎を発症することが知られており、発症した場合はQOLの低下を招き、治療に難渋することがあります(図4)。これらは特にがんの骨転移に対して使用する高用量製剤(ゾメタ®、ランマーク®)において発症リスクが高い傾向にあります。本疾患は2003年に初めて報告された疾患であり、予防や治療法に関するガイドラインは確立していないものの、日本口腔外科学会などを中心にポジションペーパーが提唱され、少しずつコンセンサスが得られてきています。予防においては感染源となりうる歯に対して適切な治療介入を行い、投与中は継続的な口腔管理を行うことが求められます。治療法では全身状態や原疾患の病状を考慮したうえで、早期に外科的治療を検討することが推奨されています。予防や治療のいずれの段階においても大切なことは、現在のエビデンスを正しく理解し、骨吸収抑制薬の投与を行う医師と口腔衛生管理を行う歯科医師とが緊密に連携を図ることです。本疾患でお困りの際はいつでも当科にご相談ください。

図4



ARONJ ステージ1 左側下顎に骨露出を認める
ARONJ ステージ2 右側下顎に排膿を伴う骨露出を認める
ARONJ ステージ3 顎骨壊死が下顎下縁に至り、外歯瘻を形成している

症例

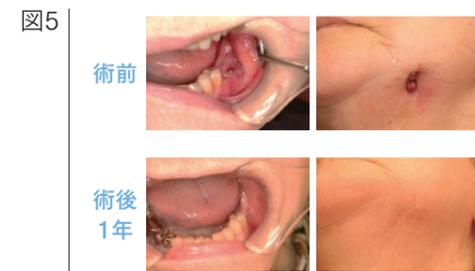


図5

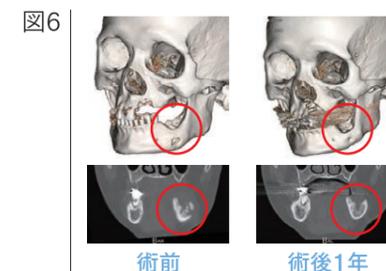


図6

78歳女性、左側下顎部の腫脹を主訴に受診。骨粗鬆症治療で5年以上ビスホスホネート製剤を内服中。左側下顎に顎骨壊死を発生し、顎下部に外歯瘻を形成。ARONJ stage3と診断し、下顎骨辺縁切除術および外歯瘻手術を行い病状の寛解が得られた(図5)。術前左側下顎骨には不正な骨吸収像がみられたが、術後正常な仮骨が得られている(図6)。

地域の医療機関の

みなさまへ

顎骨の骨折、菌性感染症に起因する顔面蜂窩織炎などの治療も行っています。早急な診療が必要と判断された場合、直接お電話いただけましたら当日すぐに対応します。専門外来「口腔顔面痛センター」では、口腔顎顔面領域の難治性疼痛に対する治療を行っています。「歯科治療を行った後にも残存する痛み」や「原因不明の顔面痛」、「歯科治療で生じた顔の神経の痺れ」などでお困りの場合、口腔顔面痛センターにご相談ください。

医長 古賀 喬亮

- 日本口腔外科学会口腔外科専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)
- 歯学博士
- 歯科医師臨床研修指導歯科医
- 緩和ケア研修修了医
- 長崎大学非常勤講師

歯科麻酔科 千堂 良造

- 日本歯科麻酔学会認定医
- 日本口腔顔面痛学会口腔顔面痛認定医
- 日本口腔顔面痛学会広報委員
- 一般財団法人日本いたみ財団 いたみ専門医
- 歯科医師臨床研修指導歯科医
- 日本疼痛漢方研究会会員

歯科医師 杉原 考輝

- 日本口腔外科学会会員
- 日本口腔ケア学会会員
- 緩和ケア研修修了医

歯科医師 本間 遼

- 日本口腔外科学会会員
- 緩和ケア研修修了医

歯科医師 藤井 竜太

- 日本口腔外科学会会員
- がん患者歯科医療連携登録医

昭代会理念
「協力・貢献・向上・教育」

1. 全職員の協力体制
2. 地域社会への貢献
3. 自己研鑽と向上心
4. 人材育成と教育

「救急」「がん」「周産期」を柱として、
急性期医療で地域を支えます。



写真: 歯科口腔外科 医師



公益社団法人昭代会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL
いまきいれ総合病院

〒890-0051 鹿児島市高麗町43番25号
TEL: 099-252-1090 FAX: 099-203-9119
<https://imakiire.jp/>



当日入院のご依頼(緊急) **医療機関専用緊急ダイヤル** 救急患者のご紹介(24時間対応)
TEL: 099-203-9115

医療連携全般のお問い合わせ **地域医療連携センター**
TEL: 099-203-9110 FAX: 099-203-9101 月～金曜日 8:30～17:00 / 土曜日 8:30～12:00

翌日以降の診療予約 **外来予約センター** 診療予約・予約変更
TEL: 099-203-9100 FAX: 099-203-9101 月～金曜日 9:00～17:00 / 土曜日 9:00～12:00

画像検査のご予約 **画像予約センター**
TEL: 099-203-9102 FAX: 099-203-9144 月～金曜日 9:00～17:00 / 第1・3土曜日 9:00～12:00



関連施設 **上町いまきいれ病院**
〒892-0854 鹿児島市長田町5番24号
TEL: 099-222-1800 FAX: 099-226-3366
<https://imakiire.jp/kanmachi/>



いまきいれ子ども発達支援センター
関連施設 **まある**
〒890-0054 鹿児島市荒田1丁目15-3
TEL: 099-202-0325 FAX: 099-202-0326

いまきいれ総合病院の
公式SNSもチェック! >>

